

平成23年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	管23K05	氏名	井元 章二
研究主題 —副主題—	第6学年の物語教材で基礎的な力の習得・活用を図る学習指導の改善		
所属校	町田市立鶴川第二小学校	派遣先	玉川大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>これまで現場で行われてきた物語教材の指導実践を振り返り、その改善策を考えたいという思いから出発している。私が目にしてきた物語教材の指導は画一的な形で行われていることが多かった。どの教材、どの学年、どの学級でも同じような指導計画や1時間の授業展開で指導がなされている。本研究は、画一的な指導となっている原因を明らかにし、物語の特性に応じて読む力を高めることができる学習指導を考え、画一的な指導を打開することを目的としている。</p>
II 研究の方法	<p>本研究の方法は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 物語教材に関する意識を図るためのアンケート調査 <ol style="list-style-type: none"> 「第6学年の物語教材の指導の難点に関する意識について」 「第6学年の重点的に取り扱うべき指導事項について」 現場で行われている物語教材の学習指導案分析 <ol style="list-style-type: none"> 3つの学年、3つの教材の指導計画を比較した。 3つの学校の物語教材『モチモチの木』の本時案を比較した。 「昭和26年度版学習指導要領 国語編」と「現行学習指導要領」の指導事項を比較 第6学年の教科書に掲載及び紹介されている物語の分析 <ol style="list-style-type: none"> ジャンルや話題、話の筋、モチーフ、主題などの観点で分析した。 物語教材を5つのジャンルに分類することができると考えた。 <ol style="list-style-type: none"> 現実的な世界の物語 空想的な世界の物語 現実的な世界と超現実的な世界が交流する物語 伝記物語 神話・伝承物語 学習指導要領の指導事項と言語活動例との関係を考慮しながら言語活動を設定して学習指導事例案を開発 <p>○上記の5つの分類の内、下記の3つの物語の特性に応じた学習指導事例案を開発した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 現実的な世界の物語 空想的な世界の物語 現実的な世界と超現実的な世界が交流する物語

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>本研究を通して以下のことを明らかにすることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 物語教材の指導が多くの教員の指導上の難点であるということが分かった。そして、その原因は学習指導要領に示されている学年に応じて重点的に取り扱うべき指導事項を十分に理解していないということである。 2 多くの学校で物語を場面ごとに区切って指導計画を設定しているということが分かった。また、本時の導入部と展開部で同じような学習活動が画一的に行われているということも分かった。 3 画一的な指導が行われている原因は、教科書会社の指導書を多くの先生が参考にしてからであるということが分かった。 4 「昭和 26 年度版学習指導要領 国語編」と「現行学習指導要領」の指導事項を比較することによって学習内容の系統性が重視されてきているという傾向が見えた。 5 第 6 学年の教科書に掲載されているすべての物語教材を分析することで、物語教材の特質を理解することができた。そして、特質に応じて分類することができるということが分かり、それぞれの特質に応じた読む力を児童に身に付けさせることが大切であるということが分かった。 6 物語の特質に応じた読む力を児童に身に付けさせるためには場面ごとに区切らずに物語全体の流れの中で表現形式に即してその特質を読み取っていく指導計画を立てる必要があるということが分かった。 7 学習指導要領の指導事項と言語活動例との関係を考慮して多様な言語活動を設定することで、1 単位時間の授業展開が画一的にならない授業展開を考えることができた。
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>今年度は、教員の意識調査及び指導案の比較・検討を行い物語指導の現状と課題を明らかにした。そこで、明らかになったことは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 物語の指導事項であるねらいが意識されていない →改善の視点①：ねらいの明確化 2 場面区切りの指導計画 3 心情理解のためのサイドライン引き等の定型化した指導方法 →改善の視点②：ねらいに即した指導方法の多様化 <p>そして、物語指導の現状と課題から上記 2 点の改善の視点を見出すことができた。さらに、改善の視点に即して指導事例案も検討することができた。教科書会社の指導書に頼らずに指導事例案を立てるためには、教材研究力と多様な学習活動に対する知識が必要不可欠である。</p> <p>来年度以降、指導事例案を学校現場で検証していくと共に、学習指導要領を分析的に読み、学年ごとの系統性を明らかにすることと教師の教材研究力を高めていくことができる校内研究の在り方を検討していきたい。</p>